

看護部

1. スタッフ構成

- 越智 小百合(看護部長)
- 岡本 奈美(副看護部長)
- 越智 文子(副看護部長)
- 阿部 カナエ(副看護部長)
- 濱田 理恵(副看護部長)

■ 看護職員状況(2023年4月1日現在)

	在籍数	産休 (産前)	産休 (産後)	育休	病休 休職等	実人数
正規						
看護師	740	4	2	60	11	663
新規採用者(新卒)	47	0	0	0	0	47
短時間勤務看護師	46	0	0	0	0	46
小計	833	4	2	60	11	756
会計年度任用職員						
看護師(日々)	24	0	0	1	0	23
看護師(パート)	42	0	0	0	0	42
准看護師(日々)	1	0	0	0	0	1
保育士・管理栄養士・介護福祉士(日々)	7	0	0	0	0	7
保育士・管理栄養士・介護福祉士(パート)	0	0	0	0	0	0
病棟看護アシスタント(日々)	26	0	0	0	0	26
病棟看護アシスタント(パート)	4	0	0	0	0	4
病棟クラーク(日々)	11	0	0	0	0	11
病棟クラーク(パート)	1	0	0	0	0	1
外来助手(日々)	8	0	0	0	0	8
外来助手(パート)	0	0	0	0	0	0
クリニカルアシスタント(日々)	9	0	0	0	0	9
クリニカルアシスタント(パート)	0	0	0	0	0	0
事務補助(日々)	8	0	0	1	0	7
事務補助(パート)	0	0	0	0	0	0
小計	141	0	0	2	0	139
合計	974	4	2	62	11	895

■ 2023年度採用

新規採用者:52名(既卒:5名、新卒:47名)

2. 認定資格取得

資格名	資格取得者
日本看護協会	
がん看護専門看護師	武田千津
新生児集中ケア認定看護師	西田ありさ、谷春香
がん化学療法看護認定看護師	山下広恵、池内靖恵
乳がん看護認定看護師	外山修子
救急看護認定看護師	山下さつき、矢野奈美、山崎誠
集中ケア認定看護師	中村京子
緩和ケア認定看護師	西谷恵、加藤弘子
感染管理認定看護師	岩本悟志、宇都宮麻美子、 奥野恵子、若林美代子
手術看護認定看護師	渡部早人、今井幹也
小児救急看護認定看護師	藤原優子

皮膚・排泄ケア認定看護師	久保美千代、和田理枝
摂食嚥下障害看護認定看護師	山下かおり
認知症看護認定看護師	玉利未来
糖尿病看護認定看護師	兵頭佳代子
慢性心不全看護認定看護師	重川みか
クリティカルケア認定看護師	越智康弘

3. 運営方針

<理念>

愛媛県立中央病院看護部は常に看護の本質を追求し、ぬくもりのある質の高い看護を提供します。

<方針>

- 看護職として生命の尊厳・患者さんの権利を尊重します。病院の目指す方向を理解し、専門職としての役割を認識するとともに、その時代背景に応じた安全で質の高い看護を提供します。
- チーム医療の要として、多職種チーム医療の推進役を担います。
- 病院組織で働く人間として、社会人・組織人としての行動が取れるとともに、看護の専門職業人に必要とされる知識・技術・態度を磨き、自らの成長に向け努力できる看護師を育成します。
- 職場環境の整備を行い、働き続けられる職場づくりを行います。
- 健全化を目指し、効率的な病院経営に参画します。

4. 実績

<看護サービス目標>

- 患者の退院後の生活(人生)を見据え、患者・家族の望む生活(人生)が送れるよう意思と自己決定権を尊重した看護ケアを提供する

<看護部目標>

- 病院経営に参画する

① 患者を尊重した最善の看護ケアの提供

急性期一般病棟に限らず、救急部門においても退院支援やリハビリを早期から取り組むことができています。退院支援計画書の個別性や患者本人への意向確認ができていないことがある等の課題も挙げられているものの、患者家族の希望する場所に退院できた患者割合については、目標達成できた部署が多くなっていることから、情報が病棟に引き継がれていると推察されます。

外来・病棟間のカンファレンス件数も昨年度 343 件から今年度 521 件に上昇し、継続看護の記録が増えるとともに、患者さんとの関わりの内容が見える記録となっていました。看護情報委員会が行った看護記録監査の結果においても、看護計画の内容が問題解決や症状軽減につながる介入が記載されるようになり(53%から67%に上昇)、看護実践の記録も 58%から 89%に上昇する等、看護記録の質改善が認められたことから、看護の質自体が向上し

ていると考えられます。

患者満足度調査では、入院患者 4.67(昨年比+0.04)、外来患者 4.48(昨年比+0.03)、看護師の対応については入院患者 4.72(昨年比+0.02)、外来患者 4.42(昨年比+0.02)と、昨年に引き続き高評価を得ました。人員不足の厳しい状況の中で患者さんを尊重する姿勢、意思決定支援への取り組みの結果と言えます。

② 診療報酬改定に伴う、加算に向けた取り組みと患者さんへの還元

2023年2月からは入退院支援加算1の加算算定ができ、2月末時点で242件算定しました。また、オンラインカンファレンスが可能な施設を増やし、医療機関とのカンファレンスを開始し、介護支援等連携指導料の算定につながりました。今後は活用の場を拡大し、オンラインでの連携が容易に実施できることが課題です。

急性期充実体制加算算定要件であるRRS体制マニュアル整備に院内で着手し、10月から運用を開始しました。施設基準充足が目的ではなく、患者さんの救命のためのツールとなりました。

今年度1月末での平均病床稼働率(全体)は72.6%(昨年度68.4%)、平均在院日数は1月までの累計で11.5日(昨年度10.7日)、1月までの収益統計では、診療単価が昨年度の95,853円から96,476円に増となり、診療密度も上昇しました。看護必要度は月平均37~40%と基準値28%を超えています。コロナ感染拡大の影響により診療制限が行われた状況下においても、高度救命救急センターや総合周産期母子医療センター等の役割は果たせました。また、新たにかかりつけ医紹介カウンター設置による紹介・逆紹介の定着と病院全体の負担軽減が期待されます。

(2) キャリアラダー・マネジメントラダーを活用した人材育成の推進

① 目標管理による自律的主体的キャリア発達を支援する

次席2人体制については、年度末のアンケート結果から62.5%が業務負担軽減、精神的な負担軽減ができると回答していました。できなかった理由としては、業務のバランスの差が挙げられました。次席の業務を分担するのではなく、主担当・副担当として2人が情報共有しながらマネジメントしてもらうようにしていましたが、役割認識が高く、主担当・副担当は決めていなかった部署が多くありました。マネジメント量が多いため、部署課題の優先順位や2人の次席の得意分野を活かす等、看護長と次席3者で共有しながら主担当・副担当、サポート体制を構築する必要があると言えます。

キャリアラダー認定については、今年度はレベル認定アップ率13.6%(昨年度12%)であり、その内訳はI:52名(59%)、II:34名(35%)、III:17名(4%)、IV:5名(3.3%)、V:0名でした。中堅以上の看護師のキャリアアップ支援が必要と言えます。看護師の離職率は、全体が6.7%(昨年度6.3%)、新人離職率は13.3%(昨年度15%)であり、退職理由は全員が能力的限界、リアリティショックでした。次席2人体制の目的の1つが人材育成であり、ラダーI認定者は3月2日時点で71%であり、昨年度の70%から大きく上昇はしていませんでしたが、キャリアラダーI獲得に向け、現任教育委員会では研修や新人会の目的・目標を吟味し提供したことで、新人は学びや自己の考えを整理し次に繋げるための今後の課題を見つけることができるようになってきています。また、部署において知識や技術の習得には個人差があり、精神面に配慮して新人の個別性に合わせ多重課題や夜勤の独り立ちに焦点を当てて支援を行う、実地指導者リーダーと協力して支援できる体制をつくりまし

た。今後は実地指導者リーダーの実地指導者へ支援する力を強化することが課題です。

(3) 働きやすい職場環境の改善推進

① 互いを助けあい、アサーティブな発言のできる職場づくり

今年度、マネジメントラダーレベルI・IIを運用開始しました。ヒューマンスキルについても期待する姿を可視化することで将来を見据えた人材を組織的に育成、支援する力を育めるようにしました。職員やりがい度調査において、「雰囲気や人間関係」は昨年度3.24から今年度3.38へ、「上司への信頼」は3.25から3.37へ上昇していますが、「精神的な不安」は2.23から2.39へ低下していました。「上司の顔色を窺って自分の意見が言えず耐えているスタッフが大半」という投函があり、風通しの良い組織づくりを目指す方向とは異なる意見でした。看護部と看護長・部署間、各部署内においてもコミュニケーション不足があることが推測されます。管理者は自己を客観的に評価し顧みること、次席2人体制となり情報共有を密にして方向性を確認し合い、部署にも浸透させるよう努力すること、看護部長、担当副部長は看護長に限らず現場の声を聴き、相談できる窓口となること等、風通しの良い職場環境づくりは継続した重点課題です。

② 業務改善による超過勤務削減

2022年1月から病棟看護アシスタントの処遇改善・新設を行い、看護補助者との協働により看護師の負担軽減とやりがい度向上への貢献を目指しました。

職員やりがい度調査の結果、総合評価は昨年度の2.30からわずかではありますが0.04上昇しました。特に、「勤務条件(休日や勤務時間)」が昨年度2.53から今年度2.66、「仕事のやりがい」が昨年度3.51から今年度3.63へ、「雰囲気や人間関係」は昨年度3.24から今年度3.38へ上昇しました。

業務改善委員会において、休憩時間の確保に関する取り組みの一環として休憩時間の調査を行いました。補完体制の整備、啓発、意識づけ等の提案を行い、ほとんどの部署で改善がみられました。また、病棟クレークが配置されている部署においては、病棟クレークで対応が可能な業務のうち35%が病棟クレークへの委譲がされておらず、特に、入退院時の対応、消耗品の管理、電話・来訪者の対応の未実施が目立ちました。看護師と病棟クレーク間のタスクシフト/シェアを提案しましたが、各部署の取り組みは少なく、今後の課題となりました。

また、業務改善委員会と次席会の協働で取り組んだ8時30分始業開始に関する取り組みは、ver.1(8時30分情報収集開始)、ver.2(8時30分管理申し送り開始)の2パターンで運用を開始しました。退勤前業務が残るのではないかと懸念もありましたが、1月に試行した部署において超勤は減っていました。新人を含め短時間の情報収集と引き継ぎを行い、業務フローを浸透させて定着化を図ることが課題です。

看護情報委員会が2021~2022年に行ったアンケート調査結果より、システム上の変更可能な事案を抽出し、病院側と予算獲得の交渉と電子カルテシステムベンダーとのシステム変更の交渉を重ねました。その結果、現行のアセスメントシートに退院支援に係る情報を追加、分かれていた入力フォームを統合、看護サマリとの連携、病棟管理日誌の表示改善、ワークシート新規追加に対応可能となりました。年度内には運用開始する予定であり、さらなる看護記録の効率化が期待されます。

<継続教育実績>

■ 2022年度 県立病院看護職員研修(4病院合同)

研修名	目的	担当講師	開催日	参加
ラダーレベルI トライ				
①既卒新規採用者看護職員研修 ②新卒新規採用者看護職員研修 ③新卒新規採用者リフレッシュ研修	1.県立病院の理念と組織を理解し、専門職業人としての自覚を養う 2.基礎的な看護の知識・技術を習得し、安全で安楽な看護を提供できる力を養う	県立病院課 他	①5月12日 ②5月12～13日(宿泊) ③10月28日	①9名 ②93名 ③88名
ラダーレベルII トライ				
フィジカルアセスメント	対象者の健康状態を把握するために必要なフィジカルアセスメント能力を養う	救急看護認定看護師 矢野奈美 救急看護認定看護師 山崎誠 集中ケア認定看護師 中村京子 小児救急看護認定看護師 藤原優子 救急看護認定看護師 渡部大志	7月14日 or15日、 8月22日 or23日	62名
看護過程の展開(基礎)	看護過程の展開をするための基礎的な能力を養う	県立医療技術大学 教授 松井美由紀	9月7日、10月14日	35名
3年目フォロー研修(単年)	コロナ禍で新卒新規採用者を対象とする研修の実施が不十分であった看護師に、ストレスへの対処法や、コミュニケーション能力の向上のほか、新卒看護職員同士の交流の場をもうけ、看護について自ら立ち返るなど、心理面でのサポートを行う	県立病院課 他	8月26日	24名
ラダーレベルIII トライ				
看護倫理I	自部署における倫理的問題や課題を明確にし、自身の役割や責任を理解した上で看護者として倫理的意思決定支援ができる	がん看護専門看護師 武田千津	6月28日、7月26日	36名
フィジカルアセスメントII(症例編)	フィジカルアセスメントの理解を深め、臨床で活用できる	救急看護認定看護師 矢野奈美 救急看護認定看護師 山崎誠 集中ケア認定看護師 中村京子 小児救急看護認定看護師 藤原優子 救急看護認定看護師 渡部大志	6月21日	22名
看護過程の展開(実践)	看護過程と理論の関係を理解し、個別性のある看護計画を立案・問題解決をできる知識と技術を習得する	各病院にて開催 ①愛媛県立中央病院 ②愛媛県立南宇和病院 ③愛媛県立今治病院 ④愛媛県立新居浜病院	①10月31日、11月30日 ②11月5日、1月7日、2月3日 ③9月30日、11月4日 ④9月21日、10月19日、2月21日	①17名 ②3名 ③3名 ④2名
看護倫理II(意思決定支援)	ケアの受け手や周囲の人々それぞれに応じた意思決定に必要な支援ができる	がん看護専門看護師 武田千津	11月8日	31名
マネジメントI マネジメントの基本を学びチーム運営を成功に導く	リーダーシップを発揮してチーム運営で成果を上げる	NPO 法人病院経営支援機構 アソシエイト 山下まゆみ	10月21日	30名

人材育成I(教育技法) やってみよう!教え方 次第で若手はのびる! ～看護現場で使える 教育学の理論と技法 ～	対象に合わせた教育技法を理解し 現場で活用することができる	愛媛大学教育・学生支援機構教育企 画室 教授 中井俊樹	7月29日	36名
人材育成II ファシリテーションの基 本 リーダーシップに 不可欠!～組織を活性 化するファシリテーショ ン～	ファシリテーターの役割を理解し組織 の中で円滑な合意形成に導く能力を 養う	ひとづくり工房 esuco 代表 浦山絵里	9月9日	19名
理論研修(中範囲理 論)	理論を用いて、対象を理解し、適切 な看護介入を行う能力を養う	NPO 法人看護キャリア開発センター 代表 下山節子	6月24日、11月25 日	12名
看護研究の基礎	看護研究の一連のプロセスについて の基礎知識を学ぶことができ、研究 的な視点を養う	県立医療技術大学 教授 野本百合子 各病院看護研究委員	6月10日、7月22 日、8月24日、10月 3日(4回までWeb)、 11月16日(集合)	30名
中堅看護職員研修	キャリアプラトーンに陥りがちな中堅看 護職員がこれからも意欲的に看護の 仕事を続けられるように活力を養う	県立病院課 オフィス KATSUHARA 代表 勝原裕美子	8月12日	58名
セルフマネジメント	目に見えない感情の特性を理解し、 マネジメントする方法を学ぶ	(株)ハートセラピー 杉山修	10月12日(Web)	23名
ラダーレベルIV トライ				
フィジカルアセスメント II(症例編)	フィジカルアセスメントの理解を深 め、臨床で活用できる	救急看護認定看護師 矢野奈美 救急看護認定看護師 山崎誠 集中ケア認定看護師 中村京子 小児救急看護認定看護師 藤原優子 救急看護認定看護師 渡部大志	6月21日	19名
中範囲理論	理論を用いて、対象を理解し、適切 な看護介入を行う能力を養う	NPO 法人看護キャリア開発センター 代表 下山節子	6月24日、11月25 日	16名
マネジメントII チームを運営する力	マネジメント力を発揮し、部署や組織 の課題を明らかにし変革に取り組む	NPO 法人病院経営支援機構 山下まゆみ	11月11日	20名
人材育成II ファシリテーションの基 本 リーダーシップに 不可欠!～組織を活性 化するファシリテーショ ン～	ファシリテーターの役割を理解し組織 の中で円滑な合意形成に導く能力を 養う	ひとづくり工房 esuco 代表 浦山絵里	9月9日	17名
役割				
看護管理と倫理 次席	倫理的課題に気づき、課題との向き 合い方について学ぶことで看護管理 者として成長し、実践をとおして組織 や人の成長につなげる	オフィス KATSUHARA 代表 勝原裕美子	1月12・13日	57名
看護管理と倫理 看護長	倫理的課題に気づき、課題との向き 合い方について学ぶことで看護管理 者として成長し、実践をとおして組織 や人の成長につなげる	オフィス KATSUHARA 代表 勝原裕美子	1月12日	66名

災害				
災害研修(公開) 病院内での災害時の ケア(1日目) 災害時拠点病院の役 割とリーダーシップ(2 日目)	災害時の備えについて理解できる 災害時の対応がわかる 災害拠点病院の機能がわかる 災害看護に必要な知識・技術を習得 し実践で活用する力を養う	災害医療センター長 馬越健介 救急看護認定看護師 山下さつき 救急看護認定看護師 矢野奈美 集中ケア認定看護師 中村京子 救急看護認定看護師 山崎誠	12月9・10日	37名 (うち他施 設17名)
トピックス				
自分らしく働くための ポジティブ心理学～看 護師の幸せがここに～	看護師の心のケアをとおし、しなやか で、へこたれない自分を育て、自分ら しく人と関わり働くことができる	埼玉県立大学保健医療福祉看護学科 精神看護学 教授 秋山美紀	9月17日(Web)	46名 (うち他施 設3名)

【専門・認定看護師活動報告】

○がん看護専門看護師活動:武田千津

(1) 院内活動

<がん治療センター運営委員会>

- ・ がん治療センター運営委員会参加(3月15日、6月14日)

【緩和ケアチーム】

- ・ 緩和ケアチームラウンド(1回/週)
- ・ 緩和ケアチーム依頼のべ患者数:12名
- ・ 緩和ケアスクリーニング延べ件数:1,219件
- ・ 緩和ケアチームラウンド延べ患者数:258名
- ・ 緩和ケア研修会(8月20日)

【がんゲノムWG】(2月18日)

- ・ エキスパートパネル(1回/週)参加
- ・ 当院エキスパートパネル出検数:34件
- ・ がんゲノム医療連携病院説明会(1回/月)参加
- ・ 院内がんゲノム勉強会(6月10日)

【地域がん診療連携拠点病院WG】

① がん相談支援センター

- ・ 全相談3,342件のうち809件を担当(24.2%)

② キャンサーボード

- ・ キャンサーボード参加(第2・4木曜日8:00～8:15)
- ・ 臨時キャンサーボードコーディネート(5月13日、6月14日、6月21日、8月8日、10月27日、12月2日)

③ 市民公開講座企画(愛媛CATV放映、当院HPで配信)

- ・ 第29回「がん患者さんに伝えたい感染予防のためのワクチン」(当院感染症内科医からの講演)
- ・ 第30回「あなたも知っておきたい胆道癌・膵臓癌の最新情報Q&A～がん治療の最前線で取り組む現場医からのメッセージ～」(当院消化器内科医、放射線科医、消化器外科医からの講演)

④ 症例検討会企画(がん治療センター・地域医療連携室主催)

- ・ 第117回医療連携懇話会「病状の悪化が予測される中、患者・家族のより良い療養の在り方を共に考える～意思決定支援にどうかかわるか～」(当院呼吸器内科医、病棟看護師、地域医療連携室MSW、地域の医療機関および介護支援専門医からの発表・意見交換)

⑤ ルタテラWG(11月16日)

- ・ 担当振り分け、実施に向けた準備

(2) その他の院内活動

- ・ 患者支援室運営委員会(3月16日、6月23日)
- ・ 臨床倫理問題検討部会
- ・ 専門・認定看護師会(1回/月)
- ・ 「意思決定・退院支援を考える」講師(6月27日)
- ・ 新人III期研修 看護倫理(10月24日)
- ・ 県立病院看護職員合同研修「看護倫理I」講義(6月28日、7月26日)
- ・ 県立病院看護職員合同研修「看護倫理II(意思決定支援)」講義(11月8日)
- ・ 院内看護研究発表(10月7日)
- ・ 部署依頼カンファレンスへの参加
- ・ 12階東病棟(1月21日:PCAポンプ)、外来(4月13日、9月12日)、サポートセンター(10月19日)

(3) 院外活動

- ・ 愛媛県がん診療連携協議会がん看護専門部会がん看護実践能力向上研修 企画委員
- ・ がん看護実践能力向上研修「危機理論」講師(9月7日)
- ・ ELNEC-Jえひめ ファシリテーター(8月21日)
- ・ 愛媛県がん診療連携拠点病院協議会緩和ケア専門部会 コアメンバー 専門部会の企画運営
- ・ 愛媛県がん診療連携拠点病院協議会相談支援専門部会相談員研修ワーキング がん相談員研修企画・運営
- ・ 地域相談支援フォーラムin四国 実行委員(フォーラム開催10月22日)
- ・ 公益社団法人日本看護協会専門看護師制度委員会 委員
- ・ 公益社団法人愛媛看護協会「リソースナース全体交流会～効果的な活動をするための交渉力向上について～」 「専門看護師として活動するための交渉力」話題提供(5月28日)
- ・ 松山看護専門学校講義(4月22日)
- ・ 愛媛県立医療技術大学講義(7月13日)

(4) 自己研鑽

- ・ 第36回日本がん看護学会学術集会 発表、Web参加(2月)
- ・ 第9回日本CNS看護学会 Web参加(7月)
- ・ 第27回日本緩和医療学会 Web参加(7月)
- ・ 地域相談支援フォーラムin四国(1月22日、10月22日)

- ・ 2022年度高知県立大学がん高度実践看護師(APN)コース「がんゲノム医療における患者のケアとキュア」(4単位、60時間)

○新生児集中ケア認定看護師活動:西田ありさ、谷春香

(1) 院内活動

■ 院内研修(依頼)

開催日	名称	対象
11月14日	新生児蘇生 -気管挿管の介助-	産科病棟助産師

■ 自部署研修(自部署対象)

開催日	テーマ(内容)	対象
4月26日	DPAP/ネーザルハイフロー管理中の看護	NICU転入看護師
6月8日	NICUでの患者観察の基本	NICU/GCU新人看護師
6月23日	早産児の初期ケア	NICU看護師
7月21日	低出生体重児の初期ケア	GCU看護師
8月5日	NICUでの輸液管理	NICU/GCU看護師
9月7日	看護倫理	NICU/GCU看護師
12月5日	NICUでの急変時対応	NICU/GCU看護師
2月1・14日	NICUにおける災害看護	NICU/GCU看護師

(2) 院外活動

■ 学会発表・参加

開催日	名称
5月26・27日	第39回四国新生児医療研究会(座長・発表)
11月25・26日	第31回日本新生児看護学会学術集会(参加)

■ 院外講師(看護学校・看護協会)

開催日	名称	対象
12月1日	NICU看護	松山看護専門学校 第2看護学科48期生
12月8日	NICU看護-家族の理解と援助-	松山看護専門学校 第2看護学科48期生

(3) 実践・指導・相談

<実践>

- ① COVID-19 陽性・疑い妊婦から出生した早産児の初期ケアを実践しました。
- ② 人工呼吸器管理中の計画外抜管予防としての身体行動制限に関するプロトコールを作成し、活用しました。

<指導>

- ① 新人看護職員研修内容とNICU教育を関連させた内容とし、新生児科領域の勉強会を開催し、指導しました。
- ② 院内研修(フィジカルアセスメントや看護過程の展開等の基礎研修)事後課題に対する支援を行いました。
- ③ 人工呼吸器管理中の計画外抜管予防のためのケア(フィジカルアセスメント、ポジショニング、アラーム対応、抜管時の初期対応)についてOJTを行いました。
- ④ 新生児のフィジカルアセスメントや急変時対応のシミュレーション教育を実施しました。
- ⑤ 出生直後の新生児に対する気管挿管の介助について産科病棟でシミュレーション教育を実施しました。

<相談>

急性期ケア、COVID-19 陽性・疑い妊婦から出生した新生児や家族への対応の修正、他病棟に入院中の乳幼児のポジショニングに関する相談を受け、随時対応しました。

○がん化学療法認定看護師活動:山下広恵

(1) 院内活動

<実績>

- ① 12階東病棟実績
 - ・ 入院患者数:666人(前年631人)
 - ・ 化学療法実施件数:2,488件、日別:8~9件
- ② 外来化学療法実績
 - ・ 外来実施件数:9,234件(前年8,990件)、日別:20~67件(前年13~65件)
 - ・ 患者数:1,050人(前年1,029人)、新規患者数:465人(前年453人)

※2020年2月~抗悪性腫瘍薬皮下・筋肉注射・髄注は各診療科および中央処置室で実施。実施総数:1,804件(前年1,436件)[血内/乳腺/婦/小児/消外]

<活動内容>

- ① 12階東病棟
 - ・ 移植治療や化学療法を受ける患者への多職種で連携した患者さん・ご家族の意思決定支援
 - ・ 化学療法・移植治療に関する教育スケジュールの整備やキャリアアップとスタッフの育成
- ② 外来化学療法室
 - ・ 多職種による運用検討:患者入室待ち1時間未満への取り組み
 - ・ 看護師協同の体制づくりと時間外勤務低減
 - ・ 患者さん・ご家族へのセルフケア支援への取り組み
 - ・ 新人ローテーション研修(12月):3人(9階東病棟1人・12階西病棟2人)
 - ・ がん看護実践能力向上研修会における他部門実習
 - ・ 外来診療および外来化学療法室 半日1人
- (2) その他の院内活動
 - ・ がん治療センター運営委員会(3月2日、6月17日)
 - ・ 化学療法チーム会(1回/月 計12回)
 - ・ レジメン審査委員会[2018年発足](1回/月 計12回)
 - ・ 緩和ケアリンクナース育成研修WG(1回/月)企画・運営
 - ・ がん患者指導管理料イ:3件
 - ・ がん患者指導管理料ロ:3件
 - ・ チームICI(immune checkpoint inhibitor)[2017年発足]:11月 ICI使用状況報告第48報 報告
 - ・ 抗がん薬曝露対策プロジェクトチーム会[2018年発足]:2019年閉鎖式薬物移送システム(CSTD)導入。レジメン変更率83.9%(479/571)※前年64.2%(330/514)
 - ・ 投与管理手順書作成・ホームページ公開
 - ・ キャンサーボード開催:定期26・臨時6回※前年定期21回・臨時3回
 - ・ がんゲノム医療連携病院エキスパートパネルWeb参加
 - ・ 専門・認定看護師会参加

<指導>

■ 部署勉強会

開催日	テーマ(内容)	対象	参加
5月17日	血管外漏出予防と漏出発生時の初期対応	病棟看護師	13名
7月26日	セルフケア支援	外来看護師	10名
10月18日	曝露対策、レジメン読み方、安全・確実な投与管理	病棟看護師	16名
11月22・25日	事例検討会	病棟看護師	17名

■ 緩和ケアリンクナース育成研修の企画・運営

開催日	テーマ(内容)	対象	参加
3月4日	看護を語る会	リンクナース	33名
6月23日	研修オリエンテーション	リンクナース	12名
10月25日	症例検討会	リンクナース	13名

■ 新規採用看護職員III期研修

開催日	テーマ(内容)	対象	参加
12月16日	がん化学療法を受ける患者の看護 講義・演習	新人看護師	50名

■ 厚生労働省「造血幹細胞移植医療体制整備事業」

- 造血幹細胞移植推進拠点病院愛媛県立中央病院「看護基礎研修I・II」Web開催(8月27日・9月3日)参加50名・48名『造血細胞移植患者の看護教育に必要な基礎知識とセルフケア支援』講義

<相談>

- 対応件数46件(前年49件):自部署17件+他部署29件
ICU投与管理支援、小児科好中球減少期の食事管理、稀な薬剤、内服薬の曝露対策、血管炎・漏出対策など

(3) 院外活動

<講義>

開催日	テーマ(内容)	対象	参加
5月31日	成人看護学方法論II「化学療法を受ける患者の看護」	松山看護専門学校第2看護学科2年生	42名
7月4日	がん疼痛トータルケアセミナーWeb『通院でがん化学療法を受ける患者へのケア』	医師 薬剤師 看護師	17名 74名 36名

<リソースナース活動>

- 新規採用看護職員I期研修「コミュニケーション」ファシリテーター(4月25日)
- 愛媛県がん診療連携拠点病院・専門部会報告会Web参加(8月6日)
- 新規採用看護職員II期研修「全人的苦痛・緩和ケア」ファシリテーター(8月19日)
- ELNEC-Jえひめ研修Webファシリテーター(8月20日)
- がん看護実践能力向上研修Web公開講座『意思決定を支えるケア』院内グループワーク支援(9月15日)
- 臨床研究に携わる人のeラーニング「ICR臨床研究入門」ICH E6 GCP Essential Gcp TrainingV2受講(11月4日)

<自己研鑽>

- 第36回日本がん看護学会学術集会 Web参加(2月19日～3月25日)
- Webセミナー抗がん薬曝露対策聴(3月11日)
- JMSウェビナーオンライン研修『気になる!となりの化学療法安全対策』聴講(7月27日)
- BD VANセミナーWeb研修「末梢静脈カテーテル静脈炎発生頻度と危険因子の抽出」聴講(9月5日)
- 兵庫県立大学がんプロセミナーWeb研修「がん医療における認知機能障害-ケモブレインを中心に-」受講(9月15日)
- 久留米大学病院緩和ケアセンター主催Web勉強会 第3回緩和ケアセンター「心不全緩和ケア」聴講(9月16日)
- 第60回全国自治体病院学会in沖縄(11月10・11日)『外来化学療法室における超過勤務削減に向けた取り組み-看護記録の効率化及び看護師間の連携-』共同研究者
- Web研修「がん患者のセルフケア能力を高めるマネジメント」受講(11月16日)
- Webセミナー「痛みの診療Up to Date～よりよいがん治療に繋げるために～」聴講(12月5日)
- Web研修「本人の意向を尊重した意思決定のための研修会 相談員研修会」受講(12月10日)

○乳がん看護認定看護師活動:外山修子

(1) 院内活動

<実績>

- 乳がん手術パス入院患者:148 件
- 乳がん化学療法(CE 療法初回)入院患者:27 件
- 乳がん化学療法(トラスツズマブ初回)入院患者:14 件
- 乳がん化学療法(トラスツズマブ+ペルスツズマブ+ドセタキセル初回)入院患者:4 件

<活動内容>

- リンパ浮腫指導管理料:39 件(入院)、25 件(外来)
- がん患者指導管理料イ:計 38 件
- がん患者指導管理料ロ:計 6 件
- がん患者指導管理料ニ:計 47 件
- 乳腺・内分泌外科
 - 病棟・外来カンファレンス(毎週火曜日17:00～)
 - 入院中の患者指導として、術後リハビリ、ボディイメージ受容への支援、自己検診の指導を中心にパンフレットを見直し改訂

■ 病棟勉強会

開催日	テーマ(内容)	対象
6月17日	乳がん看護	病棟看護師
8月22日	乳がん脳転移患者事例検討会	病棟看護師
11月4日	コミュニケーション研修	病棟看護師

■ 緩和ケアリンクナース研修の企画・運営(3回/年)

開催日	テーマ(内容)	対象	参加
3月4日	事例発表会	リンクナース	31名
6月23日	研修オリエンテーション	リンクナース	12名
10月25日	事例検討会	リンクナース	16名

■ がんサロンの企画・運営

開催日	テーマ(内容)	参加
6月8日	「一緒にお話しませんか」	なし
7月13日	「一緒にお話しませんか」	なし
8月10日	「一緒にお話しませんか」	なし
9月14日	「一緒にお話しませんか」	1名(患者の立場)
10月12日	「一緒にお話しませんか」	なし
11月9日	「一緒にお話しませんか」	なし
12月14日	「一緒にお話しませんか」	1名(患者の立場)
1月11日	「一緒にお話しませんか」	なし
2月8日	「一緒にお話しませんか」	1名(患者の立場)
3月8日	「一緒にお話しませんか」	1名(患者の立場)

(2) 院外活動

- ・ PEACE緩和ケア研修会のファンリレーター(8月20日)

(3) 自己研鑽

- ・ 第30回日本乳癌学会学術総会 Web参加(6月30日～7月1日)
- ・ 日本乳がん看護研究会 Web参加(11月5日)
- ・ 日本乳がん看護研究会CNスキルアップセミナー Web参加(12月25日)

○救急看護認定看護師活動:山下さつき

(1) 院内活動

■ 研修・勉強会

開催日	テーマ(内容)	部署	対象
1月18日、 6月28日	急変時対応 シミュレーション	一般外来	看護師
1月19日	急変時対応 シミュレーション	9階西病棟	看護師
3月7日	急変時対応 シミュレーション	ICU	看護師
3月17日	急変時対応 シミュレーション	地域医療連 携室	看護師、MSW
8月5日	急変時対応 シミュレーション	11階東病棟	看護師
9月12日、 10月7日、 11月30日	急変時対応 シミュレーション	5階産科病棟	看護師、 助産師
9月22日	急変時対応 シミュレーション	内視鏡室	看護師
9月29日	急変時対応 シミュレーション	12階西病棟	看護師
10月11日	急変時対応 シミュレーション	一般外来	看護師
10月21日	一次救命処置	生理検査室	臨床検査技師
11月14日	急変時対応 シミュレーション	放射線科	看護師、 診療放射線技師
12月15日	急変時対応 シミュレーション	人工透析室	看護師
12月16日	急変時対応 シミュレーション	11階西病棟	看護師

一般外来、特殊外来、一般病棟の看護師に対して、急変時対応シミュレーションを実施しました。事例提出後、カルテより記録の確認、情報を収集し、グループワークで事例の振り返りを行い、それらがシミュレーションに活かせるよう指導を行いました。急変事例を振り返り、患者の様態変化への気づきを養うため、今後も急変時対応シミュレーションは継続する必要があると考えます。

医師以外の院内職員に対しては、2回/月、1時間×3回/日、一次救命処置の研修を実施しました。

■ 院内研修(依頼)

開催日	テーマ(内容)	対象	備考
11月29日	一次救命処置	看護アシスタ ント研修	現任教育

(2) 院外活動

<講義・研修>

■ 医療技術大学(講師)

開催日	テーマ(内容)	対象
4月7・14・26日	災害看護	4年生
10月17・31日	災害看護	2年生

■ 松山看護専門学校(授業)

開催日	テーマ(内容)	対象
5月16日	一次救命処置	第2看護学科学生
7月4・11日	成人看護学方法論(急性期 看護)	第2看護学科学生

■ 愛媛県看護協会(講師)

開催日	テーマ(内容)	対象
7月13日	訪問看護研修 Step 2急変時の看護	訪問看護に携わ る看護師

<リソースナースとしての活動>

- ・ リソースナース・マネージメント委員会(3月9日、5月18日、
11月28日)
- ・ リソースナース交流集会(5月28日)

(3) コンサルテーション

急変対応した一般病棟看護師より、気道閉塞についてコンサルテーションがあり、症状、対応、緊急処置について講義指導を行いました。

○救急看護認定看護師活動:矢野奈美

(1) 院内活動

■ 院内研修企画・開催、院内研修・依頼

開催日	テーマ	内容	依頼
5月23日	患者観察	バイタルサイン	院内現任教育
6月20・21日	フィジカルア セスメント	フィジカルII	県立病院課
7月14・15日	フィジカルア セスメント	基礎研修	県立病院課
7月21日	患者観察	呼吸を整える援助	現任教育
8月19日	患者観察	全身観察	現任教育
8月22・23日	フィジカルア セスメントI	フィジカルアセスメ ント2回目	県立病院課

8月29・30日	フィジカルアセスメント	ロールプレイング・技術テスト	県立病院課
12月8・9日	災害研修	災害時の初期対応	県立病院課

■ 定期的な活動

テーマ	内容	活動
救急カート点検	看護師不在部署のカート確認(鍼灸)	毎週月曜日
搬送車の物品確認	搬送車使用後の点検を行う、必要時物品補充	毎週月曜日

(2) 実践

① 「救急カート」「搬送車」点検

看護師が配属されていない部署の救急カート点検を毎週月曜日に実施し、問題なく使用できています。

患者搬送前の準備や片付けの方法などを一覧表にして、事務・搬送車内に掲示しました。活動日に点検していますが、問題なく使用できています。

② 基礎教育から「患者観察」のフィジカルアセスメント能力の向上への取り組み

新規採用者研修、基礎研修、症状別研修と、段階を追ってフィジカルアセスメント研修を取り入れています。

患者観察から予測性を踏まえた観察項目の確認、順序だてた報告を実践できる研修にしています。

事前・事後学習を取り入れ、知識・技術・実践で活用した経験を振り返るという3段階で知識の定着を図りました。また基礎研修後の病棟支援など、研修と実践をつなぐための取り組みを行い、現場の課題を明らかにしました。現任教育、研修担当者で相談し、一貫性のある研修に変更し、指導者育成に努めます。

③ RRS の立ち上げ

院内で RRS システムを構築するために、救急カートの見直し、要請基準・報告様式の作成を行いました。2022年10月から稼働を始め RRS 要請後の患者さんの状態、対応した医師、看護師に聞き取りを行い問題がないか確認しています。現段階で要請基準や連絡体制は問題なく運用できています。

○ 救急看護認定看護師活動:山崎誠

(1) 院内活動

■ 院内活動(企画・開催・依頼)

開催日	テーマ	内容	依頼
5月23日	患者観察の基本	バイタルサイン	院内現任教育
6月20・21日	症状別編	急変対応 指導場面	県立病院課
7月21日	呼吸ケア	呼吸を整える援助	院内現任教育
7～8月	フィジカルアセスメント	呼吸・循環・腹部・意識	県立病院課
12月8・9日	災害看護	災害時の初期対応	県立病院課

■ 院内研修(依頼)

開催日	テーマ(内容)	対象	備考
6月10日、 8月20日	災害看護、一次救命処置 急変時対応シミュレーション	新人教育: II期研修	現任 教育

■ 自主研修(各病棟からの依頼も含む)

開催日	テーマ	内容	部署
8月16日	急変	急変時対応	6階西病棟
6月16日	急変	急変時対応	化学療法室

9月28日	急変	急変時対応	12階東病棟
10月18日	急変	急変対応	10階東病棟
11月17日	急変	急変対応	6階東病棟
11月21日	急変	急変対応	10階西病棟
12月7日	急変	急変対応	HCU
2月1日	急変	急変対応	9階東病棟
3月8日	急変	急変対応	HCU

(2) 院外活動

■ セミナー講師

開催日	テーマ(内容)	対象
5月21日	ファーストエイド実技コース	看護師

■ 看護学校(授業)

開催日	テーマ(内容)	対象
7月5日	呼吸理学療法	第2看護学科学学生

■ 定期的な活動

開催日	テーマ(内容)
毎月第2・第4木曜日 (10:30・15:30・17:00) 各1時間	一般職員BLS
偶数月	フライトナース会

(3) コンサルテーション

生理検査室から救急カート内の物品補充・整備についてコンサルテーションがあり、訪問(1回/3か月)し、整備や指導をしました。

(4) 実践

① 「救急カート」物品の変更

救急カート物品の見直しとして感染面・管理面を考慮して喉頭鏡をディスプレイ化しました。医療安全管理部・救急診療部の協力を得ながら各部署に周知し、2022年2月に交換を行いました。今後は3か月ごとに資機材の点検・カートの運用を含め認定看護師でラウンドします。

② 看護師フィジカルアセスメント能力の向上

新規採用者研修、基礎研修、症状別研修と段階を追ってフィジカルアセスメント研修内容を修正しています。課題としては、

- ・ 観察したことが記録されていない
- ・ 部署の指導者の育成
- ・ 急変対応の振り返りで考えたことが実践できない

上記の3点が挙がっています。研修形態の見直しや新規採用者研修から臨床判断の思考を取り入れた研修に見直し中です。2022年度の研修から採用してもらい、上記の課題を次年度評価します。

③ 各病棟での急変学習会

認定看護師2名と共同して、一般職員～各部署のスタッフに急変対応の実践トレーニングを行っています。次年度は計画的に開始日程を調整し、多くのスタッフが参加できる形にします。

④ フライトナースの育成

プレホスピタル経験のないスタッフに対して、消防機関に協力を依頼し、ワークステーション実習を経験してもらい、プレホスピタルケアを学べる場を提供しています。また、フライトナース認定指導者としてドクターヘリについての説明、実践を通じた指導を行い、フライトナースの育成を行っています。

⑤ 医師以外を対象とした BLS 勉強会

救急看護認定看護師で分担し、各病棟、他部門のスタッフに対して、BLS の勉強会を実施しました。看護師の参加人数が少ないため、次年度はもっと広報をして、できるだけ多くのスタッフが参加できるようにしていきます。

○集中ケア認定看護師活動:中村京子

(1) 院内活動

■ 院内研修(依頼)

開催日	内容	依頼
5月23日	患者観察の基本	院内現任教育
7月21日	呼吸を整える援助	院内現任教育
6月20・21日	フィジカルアセスメントII	県立病院課
7～8月	フィジカルアセスメントI	県立病院課

■ 院内研修(企画・運営)

開催日	内容	参加
1～2月	急変を予測する観察技術	29名

(2) 院外活動

■ 看護学校講義(授業)

開催日	内容
9月5日	成人看護学方法論(急性期看護)

(3) 実践・指導・相談

<実践>

- 再挿管予防介入

SAT・SBT・抜管前評価プロトコルの作成を行い、プロトコルを活用し、5名の患者評価を行いました。

<指導>

- 急変を予測する観察技術(RRS研修)

急変を予測する観察技術(フィジカルアセスメント技術)の研修を2回シリーズで行いました。知識の習得に加え、看護技術の使い方についてシミュレーションを行い実践につながるように指導しました。今後も研修を行い、臨床現場に沿った内容で研修が行えるようにしていきます。

○緩和ケア認定看護師活動:西谷恵、加藤弘子

(1) 院内活動

① 院内研修(企画・運営)

■ 緩和ケアリンクナース育成研修(ナースのための緩和ケア研修)

開催日	テーマ(内容)	参加
3月4日	事例発表	31名
6月23日	オリエンテーション	13名
10月25日	事例検討・意思決定支援	16名

■ 新規採用者II期研修

開催日	テーマ(内容)	依頼
4月25日	コミュニケーション	現任教育
8月19日	緩和ケア・全人的苦痛	現任教育

■ 院内研修:自部署研修

開催日	テーマ(内容)
3月25日	事例検討・鎮静の看護
12月26日	コミュニケーション意思決定支援

② 緩和ケアチームラウンドへの参加:活動日に参加(毎週月曜日 14:30～1回/週)

(2) 院外活動

■ 学会・研究会参加

開催日	名称
2月19・20日	第36回日本がん看護学会学術集会(Web)
7月1・2日	第27回日本緩和医療学会学術大会(Web)
8月27・28日	第48回日本看護研究学術大会(シンポジスト)
11月26・27日	第46回日本死の臨床研究年次大会(Web)

■ リソースナースとしての活動

開催日	依頼	テーマ
2月28日	松山看護専門学校	がん患者と家族への関わり
6月30日	愛媛県立医療技術大学	看護学概論(協力者として)
8月21日	四国がんセンター	ELNEC-Jえひめ

(3) 実践・指導・相談

<実践>

業務の中で症状緩和が必要な患者さんに対し、カンファレンスを通して介入方法等を検討し、実践しました。

<指導>

自部署(9階東病棟)で鎮静の事例検討を行い、鎮静の看護について勉強会を開催し、指導しました。また、コミュニケーションについても勉強会を行いました。

<相談>

緩和ケアラウンドや病棟内外の依頼に対して、随時対応しました。

○感染管理認定看護師活動:岩本悟志、上田京子、若林美代子

(1) 院内活動

■ 院内研修(企画・講師)

開催日	テーマ(内容)	対象
5月23日	手指衛生遵守率向上に向けた取り組み(目標・計画立案について)	院内感染対策リンクスタッフ
7月28日	動画を用いた手指衛生評価	院内感染対策リンクスタッフ
11～12月	withコロナにおける標準予防策～感染リスクに応じたPPEの使い分け～	全職員

■ 院内研修(依頼)

開催日	テーマ(内容)	対象
4月4日	新規採用者等オリエンテーション「病院感染予防対策」	新規採用・転入職員
4月18日	新人看護師II期研修「病院感染予防対策」	新規採用看護職員
5月9日	検査部学生オリエンテーション	検査部実習生(学生)
11月29日	看護補助者研修「感染症への対応」	看護補助者
10月21日	研修医勉強会「インフルエンザワクチン接種について」	研修医

(2) 院外活動

① 研修・指導

■ 院外研修(講師)

開催日	依頼元・テーマ(内容)	対象
2月26日	愛媛県訪問看護協議会「訪問診療及び訪問看護に係る新型コロナウイルス感染症者への感染対策」	医師、看護師
7月13日	看護協会看護職員人材派遣研修「新型コロナウイルス感染症に対する感染対策」	介護支援専門員・介護事業所職員
11月30日	愛媛県医師会 外来感染対策向上加算に係る訓練「个人防护具の着脱」	医師、その他医療関係者
12月14日	松山市社会福祉協議会 介護職員スキルアップ研修「介護サービス事業者における感染対策」	介護サービス事業所等に所属する介護職員

■ 他施設訪問指導

開催日	訪問施設
10月20日、12月13日	松山西病院

- ② えひめクラスター対策班 ICN の活動
- ・ クラスター発生施設への派遣回数:1回
- (3) 実践・活動
- ① 医療関連感染サーベイランスの実施(関連部署のスタッフの協力のもと実施)
- ・ 消化器外科、心臓血管外科における手術部位感染(SSI)サーベイランスの実施(JANISへデータ提出)
 - ・ 耐性菌サーベイランス
 - ・ 針刺し・切創・皮膚・粘膜曝露サーベイランス
 - ・ 手指消毒剤払出量サーベイランス
 - ・ 全入院患者部門サーベイランス(JANISへデータ提出)
- ※JANIS:厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業
- ② 職業感染防止策の実施
- ・ 感染制御チーム(ICT)の活動の一環として、ワクチンプログラムの立案と実施
 - ・ 全職種対象のインフルエンザワクチン接種
 - ・ B型肝炎・流行性ウイルス疾患(麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘)の抗体価検査と抗体陰性者へのワクチン接種
 - ・ 結核患者発生時の対応:接触者調査と接触者検診の実施等
 - ・ 職員の針刺し・切創、体液曝露予防策の推進と発生時の対応等
- ③ 感染対策リンクスタッフ会の企画・運営(5回)
- 主に「手指衛生遵守状況の向上」について取り組みました。各部署のリンクスタッフが、自部署の課題や問題点を改善できるようサポートしました。
- ④ ICTメンバーと共に感染対策ラウンドの実施(毎週)
- 病棟は月に1回、その他の部署は少なくとも2か月に1回、環境ラウンドを実施しました。結果は、改善活動に活かせるよう報告書として各部署に配布しました。
- ⑤ 地域連携
- ・ 感染対策向上加算に係る合同カンファレンスの実施:松山西病院との合同カンファレンスの実施(3月1日、10月11日、

12月13日)

- ・ 松山・東温感染対策協議会(感染対策向上加算I算定5施設による会):総会(3月2日)
- ⑥ 感染対策の推進
- ・ 院内感染対策に関する研修会の企画・運営
 - ・ 感染対策マニュアルの作成、改訂と周知
 - ・ 標準予防策遵守向上に向けての取り組み
 - ・ 現場での感染対策に関する指導やコンサルテーション
 - ・ ケアプロセス監査会への参加
 - ・ 新型コロナウイルス感染症対策
- ⑦ AST(抗菌薬適正使用支援チーム)活動
- ・ ASTメンバーと共に研修会の企画・運営
 - ・ 血培陽性者・ASTコンサルテーション・抗菌薬長期使用者の患者さんの情報収集

○手術看護認定看護師活動:渡部早人、今井幹也

(1) 院内活動

■ 院内研修(依頼)

開催日	テーマ(内容)	対象
4月5日	1年次研修医オリエンテーション ガウンテクニック・手術時手洗い方法について	1年次研修医

■ 院内勉強会(企画・支援)

開催日	テーマ(内容)	参加
4月6日	OP室オリエンテーション、手術室の構造と業務、各種マニュアル・手順、教育体制	手術室新人・転入看護師6名
4月7日	OP室内オリエンテーション 洗浄、組み立て、滅菌、器械の管理、手術室清掃	手術室新人・転入看護師6名
4月11日	感染管理、手術室の環境、手術時手洗い、ガウンテクニック	手術室新人・転入看護師5名
4月12・13日	器械展開・カウント方法 補助台カバーの装着方法、使用済み器械の回収方法	手術室新人・転入看護師6名
5月17日	針刺し防止対策について	手術室新人看護師4名

(2) 院外活動

■ 院外研修(依頼)

開催日	名称(テーマ)	対象
9月2日	松山看護専門学校 成人看護学「手術を受ける患者の術中看護」	松山看護専門学校
11月4・5日	第36回日本手術看護学会年次大会 研究発表「皮膚・神経障害の予防、DV対策」座長	日本手術看護学会主催

■ 学会・研修会参加

開催日	名称
6月18日	第15回周手術期管理チームセミナー
8月2日	第52回日本手術看護学会四国地区学会(Web)
10月14・15日	第44回日本手術医学会(シンポジスト)
11月4・5日	第36回日本手術看護学会年次大会(Web)
11月10・11日	第60回自治体病院学会

(3) 実践・指導・相談

<実践>

- ① 定期手術患者および緊急手術患者の器械出し看護業務・外回り看護業務を実践しました。
- ② 中央材料部において手術器械の洗浄・滅菌・組み立てを実践しました。

<指導>

- ① 手術看護業務(器械出し看護業務・外回り看護業務)に対して、スタッフに日々指導を継続しました。
- ② 外回り看護業務を経験し始めたスタッフに対して勉強会を実施し、指導することで質担保できました。
- ③ 中央材料部において手術器械の洗浄・滅菌・組み立ての指導を行い、インシデント低減につなげました。
- ④ 手術室・中央材料部での COVID-19 患者の対応について、見直しと指導を行いました。

<相談>

周術期に関連する内容について随時対応しました。また、手術室チーム活動に対して相談を受け、対応しました。

○小児救急看護認定看護師活動:藤原優子

(1) 院内活動

■ 院内研修

開催日	名称	対象
4~7月	小児医療センター新採用者勉強会(計2回)	新採用者、転入者
4~12月	小児BLSスキルチェック支援	小児医療センタースタッフ・小児科外来の全スタッフ
6~7月	気管カニューレ自己抜去時の対応訓練支援	小児医療センターの全スタッフ
6月20・21日	フィジカルアセスメントII研修	ラダーIIIトライ看護師
7月14・15日、8月22・23日	フィジカルアセスメントI研修	2年目看護師
8~3月	4階フロア・7階西病棟瘻瘻時対応勉強会(計5回)	各部署看護師

■ 委員会

開催日	名称
2016年4月~	虐待防止委員会(第4水曜日/月) 虐待防止委員会コアメンバー活動 松山市連絡調整会(第3水曜日/3か月)

(2) 院外活動

■ 発表

開催日	名称	対象
7月1日	四国虐待医療セミナー症例検討会・症例発表	中四国医療機関・児童虐待に関わる関係者

■ 学会・セミナー参加(Web開催)

開催日	名称
6月19日	小児救急看護認定看護師フォローアップセミナー
7月2・3日	BEAMSIII

7月9・10日	日本小児看護学会第32回学術集会
7月29~31日	第35回日本小児救急医学会学術集会

(3) 実践・指導・相談

- ① 小児 BLS 技術習得、急変時対応についての学習支援や振り返りを行い、個人や病棟全体の課題を見出し、それぞれの課題達成支援を行い、環境整備に取り組みました。
- ② 経年別のフィジカルアセスメント研修を通して、院内のスタッフ育成・指導に貢献しました。
- ③ 乳幼児の事故防止や虐待対応について相談対応を行い、育児支援を通し、虐待防止委員として虐待予防活動を実践しました。
- ④ リスクマネジャーと協働し、院内の小児救急関連物品の整備・管理を実施し、相談対応を行いました。

○皮膚・排泄ケア認定看護師活動:久保美千代、和田理枝

(1) 院内活動

<創傷ケア委員会、創傷ケア検討部会>

開催:第1木曜日(検討部会 13:30~16:00、委員会 17:00~)

【目標】

- ① 褥瘡・ハイリスクケア加算対策の実践
「褥瘡推定発生率 0.3%を維持し、医療関連機器圧迫創傷(MDRPU)推定発生率の上限を0.5%とする」
- ② リンクナースの育成(ワーキンググループ活動)
- ③ 褥瘡対策診療計画書の確実な運用
 - ・ 褥瘡対策診療計画書のデータ報告
 - ・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算:528件
 - ・ 褥瘡・ハイリスク患者のラウンド:1,907名
 - ・ 褥瘡患者の回診:591名
 - ・ エアマット管理(適正な使用):714件
 - ・ 褥瘡・褥瘡ハイリスク回診及びカンファレンス:99名
 - ・ 創傷発生時のカンファレンス実施率:77%

	第4回日本褥瘡学会	2022年当院データ
褥瘡推定発生率	1.2%	0.3%
褥瘡有病率	2.46%	1.4%
医療関連機器圧迫創傷	0.34%	0.5%

■ 院内研修(企画)

開催日	テーマ(内容)	対象	参加
5月26日	リンクスタッフ勉強会: 皮膚の基礎知識・観察/DESIGN-R(2020)	創傷ケア リンクスタッフ	講義:23名
6月16・21・29日	「褥瘡の診断と治療 DESIGN-R(2020)・褥瘡の診療報酬」	専任医師	ポスター講義:116名
7月21日	リンクスタッフ勉強会: スキンケアの基本【洗浄・保湿・保護】・IAD ケア/オムツの当て方	創傷ケア リンクスタッフ	講義、実習:23名
10月20日	リンクスタッフ勉強会: スキンケア用品除圧用具について	創傷ケア リンクスタッフ	講義、実習:23名

12月15日	リンクスタッフ勉強会: オープン学習会「治 療薬剤/栄養」	創傷ケア リンクスタッ フ、スタッフ	講義:37名
--------	-------------------------------------	--------------------------	--------

<ストーリーナビリテーションチーム会>

開催:5・8・11・2月第3月曜日(13:30~16:00)

【目標】

- ① ストーア関連部署(成人)経験年数3年以内の看護師が「ストーリーマ器具交換に関する技術」の自己他者評価において前期より後期を10%上昇
- ② 地域連携を必要とする患者さんの退院前カンファレンスの枠組みを作成し、看護サマリに90%反映

【結果】

- ① 他者評価が自己評価を25%上回ることができ、実践能力は向上しました。
- ② 地域連携を必要とする患者さんの退院前カンファレンス開催率85.5%、看護サマリー反映率87.5%でした。

	2018	2019	2020	2021	2022
ストーア外来処置 件数	846	850	596	672	686
ストーア在宅療養 指導料件数	654	617	561	525	592
人工肛門・膀胱造 設術前処置加算	-	-	-	94	90
人工肛門・膀胱造 設術前処置(予定 手術)	100%	100%	100%	100%	100%
人工肛門・膀胱造 設術前処置(緊急 手術プレシヨック除 く)	86%	96%	90%	100%	100%
術後在院日数(予 定合併症なし)	11日	11日	11日	17日	17日

■ ストーア造設患者の病棟ラウンド

2018	2019	2020	2021	2022
453名	312名	139名	312名	431名

<排尿ケアチーム会>

開催:3・6・9・12月第1金曜日(17:30~18:00)

【目標】

- ① RALP 後患者のセルフケアの確立ができるよう、関連部署看護師の知識化と標準化を図る
- ② 10月から頸髄損傷患者の排膿自立支援加算算定

【結果】

- ① 独自で指導用動画を作成し視聴を開始し、知識と標準化を図ることができました。
- ② 予定通り算定を開始できました。

<排泄ケア検討部会>

開催:奇数月第3月曜日(13:30~16:00)

【目標】

- ① ロボット支援下前立腺全摘出術後患者の骨盤底筋訓練指導の標準化を図るために、教育プログラム後のテストで全看護師が80点以上

- ② 11階西病棟看護師が排尿自立支援加算算定できるよう、教育プログラム後のテストで80点以上
- ③ 11階西病棟看護師の導尿の標準化を目指すために、ナーシングスキルを活用した自己他者評価の差が10%以下

【結果】

- ① 関連部署(6階東病棟、入院サポートセンター、泌尿器科外来看護師)全員が100点を取ることができました。
- ② 平均点85点
- ③ 自己他者評価の差は4.2%となり、新人以外は標準化を図ることができました。

■ 排尿自立支援加算および排尿自立指導料(外来)

	2021	2022
自立支援加算数(3~12月)	85	137
自立指導料(10~12月)	32	206
病棟カンファレンス開催率	76%	96%

【失禁関連指導】

- ① 骨盤底筋訓練動画作成及びYouTube掲載
- ② ストーア閉鎖予定患者への骨盤底筋訓練指導、小児、成人自己導尿指導、下部尿路機能障害をもつ患児、患者さんへの介入

(2) 院内活動

■ 院内研修(依頼)

開催日	テーマ(内容)	対象	参加
5月31日、 6月29日、 7月27日、 8月20日	新人II期研修 ・安全安楽なおむつ交換と失禁ケア ・創傷予防対策(褥瘡・MDRPU・スキンテア・ポジショニング)について	新人看護師	58名
10月28日	テープテア「てーへんだ!てーへんだ!」	研修医	24名

■ 院内研修(企画)

開催日	テーマ(内容)	対象	参加
1月28日	失禁ケア	排泄ケア検討部会	4名
1月28日	おむつ交換	排泄ケア検討部会	4名
2月24日	ストーアサイトマーキング	6階東病棟看護師	8名
7月14~25日	「排尿自立支援加算とは」「下部尿路機能障害」	11階西病棟看護師	31名
8月31日	「正常な排尿とは」「導尿管管理とは」	11階西病棟看護師	31名
9月5~15日	「排尿自立支援加算のながれ」	11階西病棟看護師	31名
9月6日	「保湿かたでバリア機能を整えて」	外来看護師	38名
10月14日	「排尿自立支援加算計画書作成」	11階西病棟看護師	31名
12~1月	骨盤底筋訓練動画視聴	医師・外来看護師(泌尿器科)、6階東病棟、入院サポートセンター看護師	53名

(3) 院外活動

■ 院外活動(依頼)

開催日	テーマ(内容)	対象	参加
9月3日	看護基礎研修II 造血幹細胞移植拠点 病院セミナー「移植後 早期の支持的ケア ス キンケア」	造血細胞移植看 護に関わる看護 師	講義: 48名
9月9日	「急性期看護」	看護学生48期生 2年	講義・ 実習: 38名
9月13日	愛媛看護協会看護職 員人材派遣研修「最新 の褥瘡予防と排泄ケ ア」	中小規模病院看 護師42名	講義・ 実習: 42名
12月3日	四国SR講習会 実習	ストーマケアに関 わる看護師	講義・ 実習 38名
12月8日	膀胱のリハビリテーショ ン 清潔間歇的自己導 尿	全国の医療者	32名
12月19日	「オストメイトが暮らしや すい社会」	NHK 取材	

<企画・運営>

- ・ 講習会企画:四国ストーマリハビリテーション講習会教育
委員、財務委員
- ・ 愛媛ストーマ排泄リハビリテーション研究会:コアメンバー
<リソースナースとしての活動>

■ 学会(参加・座長・発表・共同演者等)

開催日	名称	テーマ(内容)
2月11・12 日	第39回日本ストーマ 排泄リハビリテーショ ン学会	「回腸導管ストーマ周囲に 再燃を繰り返すPEHのため 難渋した1症例」発表
3月6日	第22回日本褥瘡学会 中国四国地方会学術 集会	「当院の創傷ケア委員会に よる院内発生低減への取り 組み」発表
5月20・21 日	第31回日本創傷・オス トミー・失禁管理学会 学術集会(Web)	「WOC領域のエクセレント サービスをデザインする」 参加 「排泄物の違いがストーマ 管理に及ぼす影響」発表
7月16日	第35回愛媛SR研究会	ワークショップ「ストーマをも つ高齢者の支援:急性期 病院」発表
8月27・28 日	第24回日本褥瘡学会 学術集会	「全身状態不良の多発褥 瘡に対し多職種により改 善、手術により治癒した1症 例 共同演者
9月1～3日	第29回日本排尿機能 学会	「新時代における下部尿路 機能学」

○ 摂食・嚥下障害看護認定看護師活動:山下かおり

<2022 年目標>

- ・ 正しい知識・技術を持った口腔ケアや摂食機能訓練、食
事ケアの提供を行い、誤嚥性肺炎予防・機能低下予防に
努める
- ・ 組織横断的な活動の幅を広げていく

(1) 院内活動

■ 院内研修(依頼)

開催日	テーマ(内容)	対象	依頼
5月23日	新人II期研修「患者観察」	新人看護師	看護部
7月21日	新人II期研修「呼吸を 整える」	新人看護師	看護部
8月19日	新人II期研修「フィジカ ルアセスメント」	新人看護師	看護部

■ 自部署研修

開催日	テーマ(内容)	対象
7月20日	摂食嚥下障害看護 全般	9階西病棟
8月24日	摂食嚥下障害看護 フィジカルアセスメント	9階西病棟
9月21日	摂食嚥下障害看護 リハビリ・スクリーニング	9階西病棟

■ ラウンド

開催日	内容
4月～	NSTラウンド 毎週水曜日:隔週に参加

(2) 院外活動

■ 院外研修

開催日	内容
6月23日	復職支援技術研修 安全な食事介助
7月5日	多施設合同新人看護職員研修
10月5日	復職支援技術研修 安全な食事介助
11月18日	POTT研修
2月7日	復職支援技術研修 安全な食事介助

■ 学会・セミナー参加

開催日	名称
9月23・24日	第28回摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 オンデマンド配信
11月27日	第11回口腔ケア研究会
3月17・18日	STROKE2023

(3) 実践

- ① 脳神経外科・脳神経内科の嚥下障害患者の評価・スクリー
ニングを行い、訓練やリハビリを多職種でカンファレンスしな
がら看護計画に反映させ実践に取り組みました。
- ② 食事介助や食事姿勢、および口腔ケアラウンドを実施し他
者評価を行い9階西病棟スタッフにフィードバックしました。
 - ・ 摂食嚥下評価人数:99名
 - ・ スクリーニング施行患者:4名

- ・ STとの食事ラウンド件数:36名
- ・ 認定単独での食事ラウンド件数:986名
- ・ 摂食機能療法算定件数:176件
- ・ 経口移行患者:39%(転入時胃管から経口食へ切り替わった患者)
- ・ 多職種での嚥下カンファレンス実施率:90.2%

③ 11階西・10階東・9階西病棟・HCUに摂食嚥下簡易チェックリストを導入し、導入後のチェックリストの使用状況を確認し、担当部署へフィードバックしました。

※上記4病棟の入院後誤嚥性肺炎発症率と看護師の意識調査を行い、フィードバックする予定

○認知症看護認定看護師活動:福島真紀、玉利未来

(1) 院内活動

■ 院内研修

開催日	テーマ(内容)	対象
2月24日	せん妄勉強会	12階東病棟看護師9名
6月23日	新規採用看護職員II期研修「せん妄予防と身体抑制」	新採用者59名
7月8日	前頭側頭型認知症について	11階西病棟看護師・病棟薬剤師12名
7月12日	FTDの重症度分類と生活支援について	11階西病棟看護師・病棟薬剤師11名
7月13日	前頭側頭型認知症の症状とケア	11階西病棟看護師・病棟薬剤師12名
9月13日	看護師がよく使用する眠剤と抗精神病薬について	6階西病棟看護師20名
9月14日	せん妄患者の看護とせん妄ハイリスク薬とせん妄治療薬について	10階西病棟看護師・病棟薬剤師13名
10月6日	認知症ケア加算1の注意点とせん妄治療薬について	11階東病棟看護師・社会福祉士・病棟薬剤師20名
10月18日	せん妄の基礎知識	9階東病棟看護師13名
11月28日	ICUでできるせん妄予防ケア	ICU病棟看護師9名

<認知症ケア加算1:認知症ケアチーム活動>

① 算定病棟の拡大

- ・ 2月1日～11階東西病棟開始
- ・ 12月1日～12階西病棟開始
- ※12月末時点で4病棟での算定

② 認知症ケアチームラウンド・カンファレンス

- ・ 対象患者数:236名
- ・ カンファレンス数:247回

③ 認知症ケア加算1 算定数:2,369回

④ 認知症ケア・せん妄対策マニュアルの改訂

【主な改訂内容】

- ・ ベンゾジアゼピン受容体作動薬の眠剤の漸減プロトコール
- ・ アルコール離脱せん妄治療薬の改訂
- ・ せん妄治療薬のアルゴリズムの改訂
- ・ コミュニケーション:進行性失語の追加

※12月1日更新を行い、電子マニュアルで周知

⑤ ミニレクチャーの実施認知症ケアチームメンバーによる15分程度のミニレクチャーを実施:7回/年

⑥ 認知症ケアコア会議:不定期開催(年3回)

(6) <せん妄ハイリスク患者ケア加算>

- ・ 算定数:9,969件
- ・ 算定率:91.6%

(2) 院外活動

<企画・運営>

- ・ 愛媛県看護協会 認知症看護研修担当者

■ 院外研修:講師

開催日	名称	対象
5月27日	第43回松山CDEオープンカンファレンスWebセミナー	医療関係者・愛媛糖尿病療養指導士
7月12日	第24回松山認知症医療ネットワーク	松山市内の認知症診療に携わっている医療者
8月6日	看護協会主催「病院以外の看護師等認知症対応力向上研修」	県内の訪問看護ステーション看護師
9月16日	看護職員人材派遣研修 松山市地域包括支援センター 雄郡・新玉主催 認知症に関する知識と対応方法について	松山市内の居宅介護支援事業所・訪問看護ステーション職員
9月29日	看護協会主催「令和4年度 看護職員の認知症対応向上研修」	県内の看護師
11月20日	愛媛県認知症ケア専門士会第37回研修会	愛媛県認知症ケア専門士会会員

■ 学会・セミナー参加

開催日	学会・セミナー名
6月18日～10月31日	第23回日本認知症ケア学会大会(Web)
10月7日	令和4年度愛媛大学医学部認知症患者医療センター講演会(Web)
11月25～27日	第41回日本認知症学会学術集会 第37回日本老年精神医学会合同開催

(3) 実践・指導・相談

<実践>

① 外来支援

- ・ 患者の居住地で認知症診断ができる病院の紹介
- ・ 地域包括支援センターと連携して認知症患者医療センターでの診断までの手続き

② 病棟支援

- ・ 認知症・認知機能障害のある患者さんやせん妄発症患者に対し、せん妄発症要因の検索と対応の相談、認知機能障害の症状アセスメントの実施や多職種連携を行い、認知スクリーニング実施を依頼し、その結果を踏まえたケアの方向性を導き、看護計画内にケア項目として記載

<指導>

- ・ 認知機能障害のアセスメントを行うための観察の視点や情報収集の方法
- ・ せん妄発症患者への非薬物療法(環境整備・コミュニケーション・活動量の増加)ケアの指導

<相談>

- ・ コンサルテーション件数:120件
- ・ せん妄発症時の対応相談が多く、患者訪問を行い、症状アセスメントを行った上で、対応方法や薬剤選択について医師や薬剤師、病棟看護師とカンファレンスを実施して対応を検討
- ・ 認知機能障害があり生活障害が出ている患者さんやご家族から、認知症診断や社会制度の活用について相談があり、地域と連携して支援

○糖尿病看護認定看護師活動:兵頭佳代子

(1) 院内活動

■ 院内研修(依頼)

開催日	テーマ(内容)	対象
6月9日	県立病院看護職員合同研修(新人2期)「血糖測定とインスリン注射」	院内現任教育委員会:新規採用者

■ 院内勉強会(企画・支援)

開催日	テーマ(内容)	対象
1月19日	糖尿病と薬物療法ー外来における療養支援のポイントー	入院サポートセンサー看護師
4月19日	糖尿病に関連した診療報酬	糖尿病外来看護師・スタッフ
5月25日	糖尿病とは、診断と検査	6階西病棟新人看護師
6月21日	糖尿病の薬物療法と看護	6階西病棟新人看護師
6月25日	CSII療法について	6階西病棟看護師
7月15日	高齢糖尿病と薬物療法	6階西病棟看護師

(2) 院外活動

■ 院外研修:講師

開催日	名称	対象
11月14日～12月12日	糖尿病・内分泌疾患患者の看護	松山看護専門学校

■ 学会・セミナー(参加・座長・発表・共同演者等)

開催日	名称	備考
3月13日	第7回中四国糖尿病療養指導スキルアップセミナー	スキルアップセッション:「地域の基幹病院における糖尿病教育入院の現状と課題」(発表)
5月27日	松山CDEオープンカンファレンス	テーマ:糖尿病と認知症・脳血管疾患(座長)
9月17・18日	第27回日本糖尿病教育看護学会学術集会	シンポジウム:ネットワーク委員会企画:地域で広がる療養し指導士の輪『共に学ぶ』愛媛糖尿病療養指導士の新たな取り組み(発表)

11月11・12日	日本糖尿病学会中四国地方会第60回総会	参加
-----------	---------------------	----

- ・ 日本糖尿病教育・看護学会ネットワーク委員(年2回四国ブロック会議)

(3) 実践・指導・相談

<実践>

- ① 外来・病棟で糖尿病患者、家族に対して療養支援を行いました。
 - ・ 外来での療養支援件数:83件
 - ・ 在宅療養指導料算定延べ件数:11件
 - ・ 糖尿病教育入院多職種カンファレンス(毎週金曜日17:30～18:30)
- ② 糖尿病患者会「にぎたつ会」を zoom で開催し、当院通院患者3名が参加しました。(1月23日)
- ③ 透析室看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師と透析室でフットチェックラウンドを実施し、足病変のハイリスク状態の患者さんに対してケアの方法を指導しました。(毎月第3火曜日 or 金曜日 10:30～)
- ④ 入院中の糖尿病足病変のハイリスク患者に対してフットケアを行い、退院後のセルフフットケア方法を指導し、外来看護師と情報共有しました。(介入患者数:12名)
- ⑤ 他科病棟入院患者に対し、病棟看護師と共に CSII 療法、インスリン自己注射・自己血糖測定指導、低血糖、シックデイ等の指導を行いました。(介入延べ患者数:7名)

<指導>

- ① 外来、病棟で糖尿病患者・家族への療養支援を通して役割モデルを示し、スタッフへ指導を行いました。
- ② 6階西病棟で GLP-1 製剤やインスリンの取り扱いに関する注意点についてポスターを作成し、インシデント発生防止のため掲示しました。
- ③ 6階西病棟スタッフへ糖尿病教育入院での看護師の講義を動画で撮影し、いつでも閲覧できるようにしました。また、講義のコツについて勉強会を開催しました。

<相談>

糖尿病看護領域の相談に対して、看護の視点とアセスメント、具体的な支援方法を示しました。

- ① コンサルテーション件数:6件
- ② 依頼内容
 - ・ 1型糖尿病発症時の患者への関わりについて
 - ・ 1型糖尿病合併妊娠中のCSII療法と食事療法について
 - ・ 血糖自己測定、インスリン自己注射をしながら在宅へ退院となる患者さん・家族の支援(認知症、高齢者、独居等)
 - ・ 糖尿病患者さんへの心理的アプローチ

○慢性心不全看護認定看護師活動:重川みか

(1) 院内活動

■ 部署勉強会(依頼、企画)

開催日	テーマ(内容)	対象
6月9・16日	心不全とは①・②	8階西病棟転入・新人看護師

7月20・27日	・心臓カテーテル検査について ・心臓血管外科(ステントグラフト)術後看護について	6階西病棟スタッフ
9月22日	TEVAR・EVARについて	6階西病棟スタッフ
10月5日	ACPについて～症例を通して～	8階西病棟スタッフ

(2) 院外活動

■ 看護学校講義

開催日	テーマ(内容)	対象
1月25日、 2月1・8日	循環器疾患患者の看護	聖カタリナ学園看護科専攻科1年生 35名(2021年度)
9月28日～ 12月14日 (計8回)	循環器疾患患者の看護	聖カタリナ学園看護科専攻科1年生 33名(2022年度)

■ 院外研修 講師

開催日	名称・テーマ	対象	備考
4月22日	多職種で学ぶ心不全 WEB勉強会－e-MUT－ 「高齢心不全患者への 退院支援～地域連携 を強化し再入院予防に 繋げた1例～」	松山圏域に おける医療 従事者	参加51名 Web
11月25日	「心不全患者の看護」	西条中央病 院職員26名	現地開催
12月1日	心不全の地域医療連携 を考える会 「心不全連携シート」	松山圏域に おける医療 従事者	Web

■ 学会・セミナー参加

開催日	学会名
3月11～13日	第86回日本循環医学会学術集会(Web)
10月1・2日	第19回日本循環器看護学会学術集会(Web)
10月21～23日	第26回日本心不全学会学術集会(現地開催)

(3) 実践・指導・相談

<実践>

① 心不全入院患者の生活調整などの療養指導や症状緩和、意思決定支援等、多職種(医師・病棟スタッフ・理学療法士・薬剤師・栄養士・地域連携室看護師)で連携しながら取り組みました。

② 心臓リハビリカンファレンス:毎週水曜日 17:00～17:15

<指導>

① 6階西病棟が循環器内科患者を受け入れるにあたり、昨年度に引き続き病棟スタッフに対し、勉強会の開催や日々の看護実践・看護記録を通して、心不全看護について指導を行いました。

【クリニカルパス(CAG、EVT等)適応外の入院患者】

- ・ 2021年度:47名、2022年度:85名
パス適応外(心不全、不整脈など)の入院患者が昨年度と比べ約1.6倍に増加しました。
- ② 心不全の病態生理や療養指導のポイント、意思決定支援等、

勉強会や看護実践を通して指導しました。

<相談>

病棟看護師から心不全終末期にある患者さんの意思決定支援、行動変容が難しい患者さんへの指導方法、初回心不全発症患者への対応等についてコンサルテーションがあり、対応しました。

- ・ コンサルテーション件数:4件

5. 学術関係

(1) 学会発表および講演

1. 和田理枝、武智由美子、發知将規. 回腸導管ストーマ周囲に再燃を繰り返すPEHのため難渋した1症例. 第39回日本ストーマ排泄リハビリテーション学会. 高松・Web開催(2022.2.11-12)
2. 武田千津、山下広恵、塩崎千愛、中瀬浩一. A施設 AYA世代がん患者の現状とスクリーニングの実施及び実施状況から見えたWG活動の課題. 第36回日本がん看護学会学術集会. 横浜・Web開催(2022.2.19-20)
3. 武田千津、山下広恵、西谷恵、加藤弘子、外山修子、本間知子、宮内珠美. A施設 緩和ケアリンクナース育成研修の継続と新たな課題. 第36回日本がん看護学会学術集会. 横浜・Web開催(2022.2.19-20)
4. 武田千津、玉井宏一、塩崎千愛、椿雅光. 地域がん診療連携拠点病院であるA施設の緩和ケアチームラウンド対象患者の状況～オピオイド使用状況からの分析～. 第36回日本がん看護学会学術集会. 横浜・Web開催(2022.2.19-20)
5. 和田理枝、仙波章子、山本益美、高市沙知子、武智由美子、久保美千代、松本扶美香. 当院の創傷ケア委員会による院内発生低減への取り組み. 第22回日本褥瘡学会中国四国地方学術集会. 徳島(2022.3.6)
6. 兵頭佳代子. 「地域の基幹病院における糖尿病教育入院の現状と課題」. 第7回中四国糖尿病療養指導スキルアップセミナー. Web開催(2022.3.13)
7. 久保美千代、古手川洋志. 排泄物の違いがストーマ管理に及ぼす影響～回腸ストーマ造設と回腸導管造設～. 第31回日本創傷オストミー失禁管理学会. Web開催(2022.5.20)
8. 谷春香. NICU新人看護師教育. 第49回四国新生児医療研究会. 高知(2022.5.26-27)
9. 福島真紀、津田知子(つだメンタルクリニック)、西岡麻利恵、中迫紀彦、石山久司、季羽勝栄、原田嵩大、滝山美保(県立今治病院). 壮年期にある独居男性患者の言動を認知症チームで読み解き支援に繋がった一例. 第23回日本認知症ケア学会大会. Web開催(2022.6.18-10.31)
10. 石山久司、津田知子(つだメンタルクリニック)、福島真紀、玉利未来、三ツ井照代、小島祐希子、西岡麻利恵、原田嵩大、山田貴大、上田紘太郎. 「認知症ケアチーム」が外来高齢独居患者に関わった症例. 第23回日本認知症ケア学会大会. Web開催(2022.6.18-10.31)
11. 嶋屋順子、武田千津、山本佳世、岡本奈美、山本格子. 看護倫理研修を専門看護師が行う意義について考える. 第72回日本病院学会. 島根(2022.7.7-8)
12. 栗林朋美、久保美千代. 人工肛門造設後のストーマ管理における不安の要因. 第35回愛媛ストーマ排泄リハビリテーション研究会. 松山・Web開催(2022.7.16)
13. 江口龍児、高市紗知子、栗林朋美、久保美千代. A病棟におけるストーマの基本的指導に対する今後の課題. 第35回愛媛ストーマ排泄リハビリテーション研究会. 松山・Web開催(2022.7.16)
14. 中川浩志、土居美歩、石野憲太郎、田中克弥、和田理枝、武智由美子. 全身状態不良の多発性褥瘡に対した多職種により改善、手術により治療した1症例. 第24回日本褥瘡学会学術集会. 横浜・Web開催(2022.8.27-28)
15. 兵頭佳代子. 『共に学ぶ』愛媛糖尿病療養指導士の新たな取り組み. 第27回日本糖尿病教育看護学会学術集会. 大阪・Web開催(2022.9.17-18)
16. 渡部早人. 手術室看護師から中材への期待. 第44回日本手術医学会. 東京(2022.10.14-15)
17. 仙波美樹、渡部早人、秀野桜、近藤諒太. 当院におけるTQM活動の発展と効果～10年の活動を振り返って～. 第60回全国自治体病院学会. 沖縄(2022.11.10-11)
18. 渡部早人、仙波美樹、原田雅光. 手術室における、5S・カイゼン・TQMサークル活動、そしてJICAサポート. 第58回愛媛県立病院学会. Web開催(2022.11.28-12.9)
19. 藤堂早智子. 消化器疾患術後患者を支える高齢な家族の不安要因について～食事管理に焦点をあてて～. 第58回愛媛県立病院学会. Web開催

- 催 (2022.11.28-12.9)
20. 秀野桜、久保真奈美. 手術を受ける患者が術前に抱く不安～当該科管理の脊髄くも膜下麻酔において～. 第 58 回愛媛県立病院学会. Web 開催 (2022.11.28-12.9)
 21. 織田朋美. 人工肛門造設術後のストーマ管理における不安について～退院後初回外来受診時に焦点を当てて～. 第 58 回愛媛県立病院学会. Web 開催 (2022.11.28-12.9)

(2) 論文・著書

1. 久保美千代. 移植片対宿主病(GVHD)のアセスメントとケア. がん患者の皮膚障害 予防ケアと発生後ケア. *Gakken*. 78-87 (2022.4)
2. 武田千津. セカンドオピニオン. *がん看護* vol.27(no.4). 南江堂. 332-334 (2022.5)